





シュローダー グローバル市場見通し

2020年
8月

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ




株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
ファンダメンタルズは低迷が見込まれるものの、流動性が支援材料と考えます。クオリティ/グロースは引き続き恩恵を受けることが期待される一方で、バリュエーションの回復には時間を要すると考えます。	バリュエーションは引き続き、割高な水準と判断しており、今後の利回り低下余地は限定的と考えます。	テクニカル面での支援と高い流動性が、当面は社債市場を下支えすると判断しており、やや強気の見通しを維持しています。	経済活動が回復へ向かうに伴い、コモディティ価格の上昇が見込まれることから、やや強気の見通しを維持しています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 ↑ 足元での高い流動性と新型コロナウイルス感染者の減少基調が引き続き支援材料となると判断し、見通しをやや強気に引き上げました。
	欧州	 ↓ 欧州復興基金の合意は支援材料ではあるものの、その後のプラス要因に乏しく、ユーロ高などが欧州株式にとって重しとなると考えることから見通しを中立に引き下げました。
	日本	 新型コロナウイルス感染が再拡大しており、株式市場にとっても重しとなると判断することから中立の見通しを維持しています。
	アジア太平洋（除く日本）	 財政政策および金融政策の実施により、新型コロナウイルスが経済に与える影響が大幅に緩和されたと考えます。ただし、豪州や香港における新型コロナウイルス感染再拡大のリスクは残っています。
	新興国	 ↑ ドル安が新興国株式の支援材料となることに加え、バリュエーションの魅力度も相対的に高いと判断することから見通しをやや強気に引き上げました。

資産クラス	分類	見通し	
国債	米国		インフレ期待が上昇した場合、30年国債にとってマイナス要因となることから、やや弱気の見通しを維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)		利回りがマイナス圏で推移していることに加え、今後のさらなる利回り低下余地は限定的と考えることから魅力度が低いと判断しています。
	新興国 (米ドル建て)	 ↑	米ドル安が支援材料と判断することから見通しを強気に引き上げました。
	新興国 (現地通貨建て)		タームプレミアム(期間の長さに伴う上乘せ利回り)の上昇やドル安の進行が支援材料となると考えます。
	インフレ連動債	 ↑	米国経済の再開の動きが続く中、インフレ期待が正常な水準に戻りつつあることからやや強気の見通しに引き上げました。
投資適格社債	米国	 ↓	当面は米連邦準備制度理事会(FRB)による流動性支援が支援材料であるものの、ファンダメンタルズやバリュエーションの魅力度が以前より低減したことからやや強気の見通しに引き下げました。
	欧州	 ↓	バリュエーションの魅力度が低減していますが、経済指標の改善や欧州中央銀行(ECB)による流動性供給は引き続き支援材料と考えます。
ハイイールド社債	米国	 ↓	財政・金融刺激策の実施は引き続き支援材料ではあるものの、直近数カ月で見られたスプレッド縮小により欧州ハイイールド債に比べバリュエーションの魅力度は低いと判断しています。
	欧州		欧州で実施されている市場支援策が引き続き支援材料と判断しています。マイナス金利やデフォルト率の低さを考慮すると、さらなるスプレッド縮小が見込まれると考えます。

シュローダー グローバル市場見通し

2020年
8月

資産クラス	分類		見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー		世界経済の再開に伴い、需要が回復に向かっていることから、やや強気の見通しを維持しています。
	金		実質金利の低下や高い流動性が支援材料と判断することから、やや強気の見通しを維持しています。
	産業用金属		経済回復期待の大部分は織り込まれたと判断しています。欧州復興基金や米インフラ投資計画など中国以外の国々による需要が上昇する可能性があるものの、中立の見通しを維持しています。

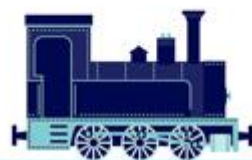
資産クラス	分類		見通し
通貨	米ドル		FRBは当面は緩和的な金融政策を維持する方針を表明していることから、引き続きドル安が続くと判断しています。
	ユーロ		金融政策、財政政策双方の面で強力な支援策が実施されており、欧州経済の回復を促進すると見込むことから、さらなる上昇が期待されると考えます。
	日本円		日本銀行による企業の資金繰り支援などの支援策が、引き続き日本円にとって支援材料と判断しています。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージング・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

日本と英国の架け橋を担い続けるシュローダー

1870年（明治3年）、鉄道敷設のために日本政府が初めて発行した国債の主幹事をシュローダーが担いました。それから150年以上たった現在でも、シュローダーは資産運用業務を通じて日本と英国の架け橋を担い続けています。



日本と英国をつなぐ歴史
日本初の国債発行150周年

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会